

	登園を控えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保護者への連絡が望ましい場合	至急受診が必要と考えられる場合
咳	<p>*前日に発熱がなくても</p> <ul style="list-style-type: none"> •夜間しばしば咳のために起きる •喘鳴や呼吸困難がある •呼吸が速い •37.5℃以上の熱を伴っている •元気がなく機嫌が悪い •食欲がなく朝食・水分が採れない •少し動いただけで咳がでる 	<p>*前日 38℃を超える発熱は出ていない</p> <ul style="list-style-type: none"> •喘鳴や呼吸困難がない •続く咳がない •呼吸が速くない •37.5℃以上の熱を伴っていない •機嫌がよく元気がある •朝食や水分が採れている 	<p>*38℃以上の発熱がある</p> <ul style="list-style-type: none"> •咳があり眠れない •ゼイゼイ、ヒューヒュー音があり眠れない •少し動いただけでも咳がでる •咳とともに嘔吐が数回ある 	<p>以下の場合、緊急受診が必要です</p> <ul style="list-style-type: none"> •ゼイゼイ、ヒューヒュー音がして苦しそうなとき •犬の遠吠えのような咳がでる •発熱を伴い（朝は無し）息づかいが荒くなったとき •顔色が悪く、ぐったりしているとき •水分が摂取できないとき <p>*元気だった子どもが突然咳こみ、呼吸が苦しそうになったとき</p>

	登園を控えるのが望ましい場合	保育が可能な場合	保育中に症状がある時には保護者に連絡し、受診が必要と考えられる場合
発しん	<ul style="list-style-type: none"> •発熱とともに発しんのあるとき •今までになかった発しんが出て、感染症が疑われ、医師より登園を控えるよう指示されたとき •口内炎のため食事や水分が取れないとき •とびひ 顔等で患部を覆えないとき 浸出液が多く他児への感染のおそれがあるとき かゆみが強く手で患部を掻いてしまうとき 	<p>•受診の結果、感染のおそれがないと診断されたとき</p>	<p>*発しんが時間とともに増えたとき</p> <ul style="list-style-type: none"> •発熱してから数日後に熱がやや下がるが、24時間以内に再び発熱し赤い発しんが全身に出てきた。熱は1週間くらい続く（麻疹） •微熱程度の熱が出た後に、手の平、足の裏、口の中に水疱がでる。膝やおしりにでることもある（手足口病） •38℃以上の熱が3~4日続き下がった後、全身に赤い発しんがでてきた（突発性発しん） •発熱と同時に発しんがでてきた（風しん、溶連菌感染症） •微熱と両頬にりんごのような紅斑がでてきた（伝染性紅斑） •水疱状の発しんがある。発熱やかゆみは個人差がある（水痘） <p>*食物アレルギーによるアナフィラキシー</p> <ul style="list-style-type: none"> •食物摂取後に発しんが出現し、その後消化器官や呼吸器に症状が出現した場合は至急受診が必要